

『新生活』 寸評

- ・ のびやかで屈託ないすなおな二重奏
- ・ Vn.IIの八分休符がよく効いててゆったりした舞曲をおもわせる
- ・ 手書きで清書までやってきた努力がみやすい譜面に結実
- ・ m.9 からのVn.Iがはじめる前打音 音楽の展開に寄与
- ・ 実感のこもったタイトルでもあるのでは

完成度をさらに上げるために

- ・ 大譜表（一人または一台の楽器を指示）ではなくグループ括弧で括ろう

- ・ 十分なスペースがなかったけど楽器名さいしょは省略せずにViolinなど
2段目からは省略形 Vn.等もしくはなしでもよい

- ・ 拍子記号は変更がないので各段につけなくてもだいじょうぶ

- ・ 小節線は各段のおわりのように2パート貫いて引いてよい

- ・ 終止線は外側を太くする

- ・ m.1 ダイナミック *mf* はVn.IIのためにももひとつつけよう

- ・ スラーは弓を返さず弾く指示 4小節は弾き切れないうらう
1小節ずつがよい

- ・ メロディの流れがとてもよいのでそれに合う音をくっつけるかたち
たとえば；

m.9-12

m.14-16 *rit.*

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

- ・ m.12 b.3 Vn.II シードの短二度は重音がとれない

たいよくできました。
持魔勉